

平成23年度 事務事業評価表(平成22年度分に係る報告)

評価対象事務事業名	シルバーメイト事業			事業コード	0417
担当課等	所属名	保健福祉部 地域福祉課	担当係名		
	課長名	保健福祉部 地域福祉課 沼田由子	担当者名	保健福祉部 地域福祉課 工藤 貢	電話番号

1. 事務事業の基本情報

総合計画体系	施策の柱	いきいきとして安心できる暮らし	コード 1	施策	高齢社会に適応した高齢者福祉の充実	コード 4
	基本事業	高齢者福祉サービスの充実	コード 2	関連予算 費目名	介護保険費特別会計 3款 2項 2目 シルバーメイト事業(001-01)	
	特記事項					
事業期間	<input type="radio"/> 単年度 <input checked="" type="radio"/> 単年度繰返 <input type="radio"/> 期間限定複数年度			⇒(開始年度 9年度～)		
事務事業の概要	社会福祉協議会の地域福祉推進へ向けた体制の整備が必要である。					
根拠法令等	盛岡市シルバーメイト実施要領					
この事務事業を開始したきっかけ(いつ頃どんな経緯で開始されたのか)						
平成8年度までは「老人連絡員制度」により、1人の高齢者を特定の1人が訪問していたが、県からの指導や、連絡員の負担が大きいこと、独居高齢者数の増加が見込まれることから、当事業に移行することになった。						
この事務事業に対して関係者(市民、議会、事業対象者、利害関係等)からどのような意見・要望が寄せられているか						
(議会) ・事業の展開にあたって、町内会、民生委員などの関係者と連携を図り事業の課題などを明確にし支援策を講ずること。 (アンケート調査等) ・高齢社会においては、市の事業としてではなく、日常の町内会等地域活動の中に位置づけられるようにしたい。 ・地域のつながりができるきっかけとなる事業で地域に必要なもの。 ・町内ぐるみで「挨拶運動」や「声かけ運動」として取り組むこととなりよかった。 ・「自主防災組織」の体制と「災害時要援護者」対応が重要視されている観点からこの事業の充実が必要である。 (県社会福祉協議会) ・人によって価値判断が分かれるような生活課題は公的な福祉サービスだけでは対応できない。地域社会の活性化のために行政が仕組みを作っていくことが必要である。						
事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令)はどう変化したか。今後の見通しはどうか						
・地域を構成する各組織(地区福祉推進会、町内会、民生委員など)が一体となり、隣近所を見守る体制が構築されてきた地域もある。 ・地区の取組みの差が広がってきた。(見守られる、見守る場を提供する取り組みをしている地域が出てきた。) ・独居高齢者のみでなく、高齢者夫婦や日中一人である高齢者が増えており、またその把握も難しい。 ・見守る側(メイト)の確保が難しく、また高齢化が進んでいる。						

2. 事務事業の実施状況(Do)

①対象 (誰を、何を対象としているのか)	見守りの必要な独居高齢者	⇒	②対象指標 (対象の大きさを示す指標)	A. 独居高齢者	単位	人
				B.	単位	
				C.	単位	
③手段 (事務事業の内容、やり方、手順)	22年度実績(22年度に行った主な活動) 市社会福祉協議会に業務委託し、32の地区福祉推進会がシルバーメイト数人によるチームを編成。シルバーの人数により活動費を設定。おおむね65歳以上の市民を対象に、安否確認や声かけによる見守りを行い、緊急時は関係機関への通報を行う。 23年度計画(23年度に計画している主な活動) 平成22年度と同様	⇒	④活動指標 (事務事業の活動量を示す指標)	A. シルバーメイト数	単位	人
				B. 訪問を受けている高齢者数	単位	人
				C. シルバーメイトが安否確認等を行った日数	単位	日
⑤意図 (この事業により対象をどのように変えるのか)	一人暮らし高齢者等が安心して慣れ親しんだ地域で暮らすことができるようにする。	⇒	⑥成果指標 (意図の達成度を示す指標)	A. 訪問を受けている高齢者数/独居高齢者数×100 【指標の性格:●上げる ○下げる ○維持する】	単位	%
				B. シルバーメイト数/訪問を受けている高齢者数 【指標の性格:●上げる ○下げる ○維持する】	単位	人
				C. シルバーメイトが安否確認等を行った日数/訪問を受けている高齢者数 【指標の性格:●上げる ○下げる ○維持する】	単位	日
⑦結果 (上位基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するか)	日常生活を安心して不便なく送ることができる	⇒	⑧上位成果指標 (上位基本事業の成果指標)	相談などを受けている高齢者数(単位:人) 介護予防事業参加者数(単位:人) 介護保険サービス利用者数(単位:人)		

2. 事務事業の実施状況(続き)

⑨事務事業の各種指標の実績及び目標値

区分	指標名	単位	20 年度実績	21 年度実績	22 年度計画	22 年度実績	23 年度計画	24 年度計画	目標年度 目標値
対象 指標A	独居高齢者	人	8189	8766	8849	9059	9149	9240	26年度 9425
対象 指標B									年度
対象 指標C									年度
活動 指標A	シルバーメイト数	人	989	1019	1200	971	1200	1200	26年度 1200
活動 指標B	訪問を受けている高齢者数	人	568	612	657	580	650	700	26年度 800
活動 指標C	シルバーメイトが安否確認等を行った日数	日	68130	58771	65700	55680	62400	65800	26年度 75200
成果 指標A	訪問を受けている高齢者数/独居高齢者数×100	%	6.9	7.0	7.0	6.4	7.1	7.5	26年度 8.4
成果 指標B	シルバーメイト数/訪問を受けている高齢者数	人	1.7	1.7	2.0	1.6	1.8	1.7	26年度 1.4
成果 指標C	シルバーメイトが安否確認等を行った日数/訪問を受けている高齢者数	日	120	96	100	94	94	94	26年度 94

⑩事務事業に係る事業費

区分	指標名	単位	20 年度実績	21 年度実績	22 年度計画	22 年度実績	23 年度計画	24 年度計画	*****
事業費	A	千円	3,270	3,406	3,749	3,382	3,728	3,728	*****
財源 内訳	④国	千円							*****
	⑤県	千円							*****
	⑥地方債	千円							*****
	⑦一般財源	千円	3,270	3,406	3,749	3,382	3,728	3,728	*****
	⑧その他	千円							*****
	合計(④~⑧)(=A)	千円	3,270	3,406	3,749	3,382	3,728	3,728	*****
	延べ業務時間数	時間	200	200	200	200	200	200	*****
	職員人件費(B)(臨時職員賃金は、事務費に含む)	千円	800	800	800	800	800	800	*****
	トータルコスト(A)+(B)	千円	4,070	4,206	4,549	4,182	4,528	4,528	*****

3. 事務事業の評価(See)

必要性評価	① 施策体系との整合性 この事務事業の意図は、結果(政策体系)に結びついていますか？	<input type="radio"/> 見直す余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 結びついている	理由: 独居高齢者等の宅での緊急時の対応への不安や日常生活での孤独感の解消を目的としており、当該事業を推進することにより、日常生活での安心感が醸成されることから、結びついている。
	② 公共関与の妥当性 市がやるべき事業ですか？ 税金を使って達成する目的ですか？	<input type="radio"/> 見直す余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 妥当である	理由: 地域のつながりが希薄になりつつある社会の中で、地域の福祉力の向上と活性化の為に支援及び仕組作りは行政の役割である。 「妥当」とする理由: <input type="radio"/> 法定事務である <input type="radio"/> 内部管理事務である <input checked="" type="radio"/> その他
	③ 対象の妥当性 対象の設定は現状のままでいいですか？ 広げられませんか？ また絞らなくてよいですか？	<input type="radio"/> 拡大または絞る余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 現状で妥当である	理由: 安否の意志伝達が困難な独居等の高齢者を対象としているため。
	④ 意図の妥当性 意図(何を狙っているのか)を絞ったり拡大したりして、成果向上できませんか？	<input type="radio"/> 拡大または絞ることができる ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 現状で妥当である	理由: 当該事業は地域の見守り体制を構築することにより、ひとり暮らし高齢者等の日常生活の安心確保を目的としていることから、現状で妥当である。
有効性評価	⑤ 成果の向上余地 成果がもっと向上する余地はありますか？	<input checked="" type="radio"/> 向上余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input type="radio"/> 向上余地がない	その内容: 見守り体制の構築を一層推進し、対象者及び見守り者の拡大を図ることにより、成果の向上が期待できる。
	⑥ 廃止・休止の影響 事業を廃止・休止した場合、施策の成果に及ぼす影響はありますか？	<input type="radio"/> 影響がない ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 影響がある	その内容: 高齢者の生活への不安や孤独感が拡大する
	⑦ 類似事務事業との関係 類似の事務事業(国、県、市の内部、民間)はありますか？	<input checked="" type="radio"/> 類似事業がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input type="radio"/> 類似事業がない	事業名: 民生委員による友愛訪問、老人クラブによる友愛訪問、緊急通報システム事業、シルバーサロン事業、災害時要援護者支援事業による地域支援者 ※類似事業がある場合、その事務事業と統廃合又は連携を図ることにより成果向上はできませんか？ 統廃合・連携検討 <input checked="" type="radio"/> できる ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input type="radio"/> できない その内容: 類似事業の連携、組み合わせにより、総合的な見守り体制の構築が推進できることから、成果向上が期待できる。
効率性評価	⑧ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できる余地はありますか？	<input checked="" type="radio"/> 削減余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input type="radio"/> 削減できない	その内容: 類似事業の連携、組み合わせ、統合により、事業費の削減余地はある。
	⑨ 人件費の削減余地 成果を下げずに人件費(延べ業務時間数)を削減する余地はありますか？	<input checked="" type="radio"/> 削減余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input type="radio"/> 削減できない	その内容: 類似事業との連携等により、現行業務に加え、調整業務等が生じることから、今以上の削減は困難である。
公平性評価	⑩ 受益機会の適正化余地 受益機会の適正化余地はありますか？	<input checked="" type="radio"/> 適正化余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input type="radio"/> 公平・公正である <input type="radio"/> 特定の受益者はいない	その内容: 事業は市内全域を対象としているが、地域によって「見守られる人」が極端に少ないことから、適正化のための取り組みが必要である。
	⑪ 費用負担の適正化余地 受益者の費用負担の適正化余地はありますか？	<input type="radio"/> 適正化余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 公平・公正である <input type="radio"/> 特定の受益者はいない	その内容: 地域で高齢者を見守っていこうという体制・地域作りを目指しており、見守られている対象者からの費用徴収は趣旨にそぐわない。

4. 事務事業の改革案(Plan)

改革／改善方向	<p>①改善の方向性(この事務事業をどう変えていくか、廃止や拡充、事業方式改善など) ※複数ある場合は、代替案その1、代替案その2とすること 震災にあって、災害時要援護者の安否確認を実施するなど、地域によってこの事業をベースとした取り組みが行われた。各地区全体の活動量、組織体制により課題もあるため、代替案は検討しつつ、移行するまで継続をしていく必要がある。なお、代替案としては次が考えられる。 代替案1 災害時要援護者事業との統合を検討する。 代替案2 (単独)補助金に変更し、取り組む意欲のある地区に対してのみ交付する方法を検討する。 代替案3 高齢者を対象とする市の委託事業や補助事業との統合を検討する。</p> <p>②改革、改善を実現していく際に想定される問題点は何ですか？ それをどう克服していきますか？ (関連部門や全庁的な調整の必要性、トップへの要望も含む) 代替案1 ① 従来からのシルバーメイト事業と、平成19年度から実施している災害時要援護者事業との円滑な統合。 ② 地域団体及び関係機関等との協議。 代替案2 補助金にすることで事務量の増加が懸念されることと、地域の諸活動に支障が生じる可能性がある。→ほかの補助金との統合を検討。</p>
---------	--

5. 課長意見

一次評価	<p>(1)一次評価者としての評価結果</p> <p>① 必要性 ● 妥当 ○ 見直し余地あり : ② 有効性 ● 妥当 ○ 見直し余地あり : ③ 効率性 ● 妥当 ○ 見直し余地あり : ④ 公平性 ● 妥当 ○ 見直し余地あり :</p>	<p>(2)全体総括(振り返り、反省点)</p> <p>ひとり暮らし高齢者の増加に伴い、地域における高齢者の見守り体制の構築が喫緊の課題となっている。現状では地域によって取り組みに温度差が生じており、見守る側の高齢化・日中一人でいる高齢者の見守りも課題となっている。今後類似事業との統合・連携を図りながら、総合的・体系的な見守り体制の構築を推進する必要がある。</p>							
今後の方向性と改革改善案	<p>(3)今後の事務の方向性(改革改善案)</p> <table border="1"> <tr> <td><input type="checkbox"/> 終了</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 継続</td> <td rowspan="3"> <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない) <input type="checkbox"/> 改革改善を行う <input checked="" type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 </td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 廃止</td> <td><input type="checkbox"/> 休止</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>方向付けの理由と改革改善の内容</p> <p>地域におけるひとり暮らし高齢者の見守り体制構築への取り組みが急務となっていることから、当該事業を継続しながら、類似事業との統合・連携により総合的体系的な見守り体制の構築を推進する。</p>		<input type="checkbox"/> 終了	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない) <input type="checkbox"/> 改革改善を行う <input checked="" type="checkbox"/> 事業統廃合・連携	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 休止		
<input type="checkbox"/> 終了	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない) <input type="checkbox"/> 改革改善を行う <input checked="" type="checkbox"/> 事業統廃合・連携							
<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 休止								